

第2回 戸畑区医療・介護従事者研修会 参加者アンケート集計結果

◆日時：平成31年2月19日（火） 19：00～20：30

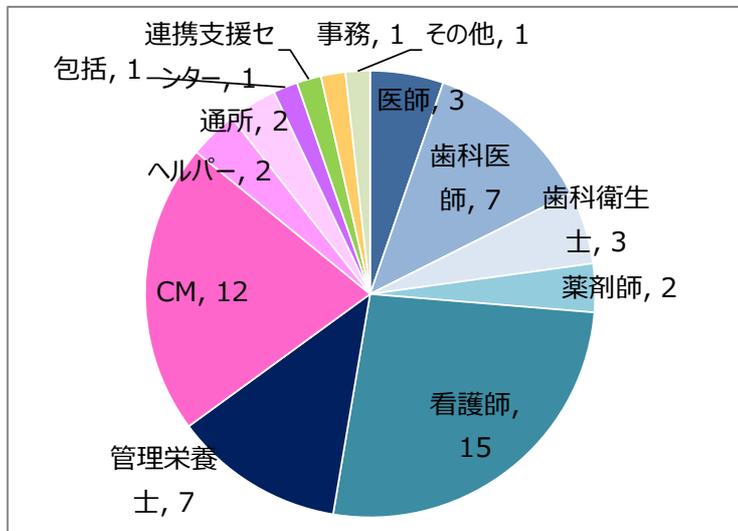
◆場所：戸畑区医師会 医療センター内 4階講堂

◆参加者：63名（内、発表者1名、事務局3名）

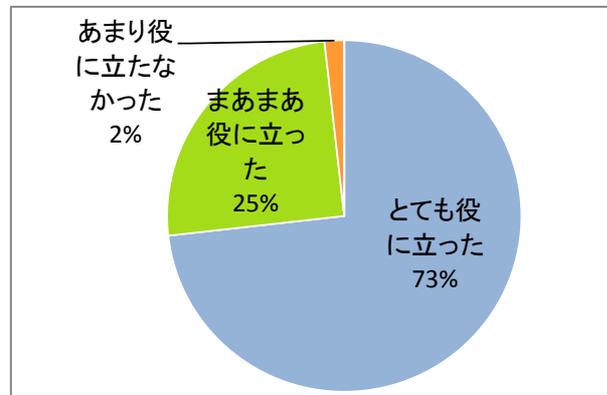
内訳：医師	3名	看護師（診療所・病院）	4名	管理栄養士	7名	事務職	1名
薬剤師	3名	看護師（訪問事業所）	8名	訪問介護	2名		
歯科医師	8名	ケアマネジャー	11名	包括支援センター	2名		
歯科衛生士	4名	通所介護職員	3名	他区連携支援センター	3名		

◆アンケート回収結果：回収率 88.8%（n = 56）

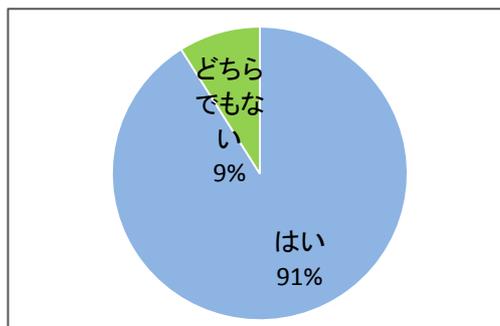
1、回答者の職種



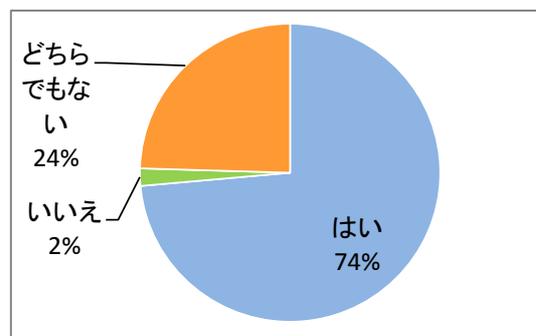
2、研修会の内容はいかがでしたか？



3、研修の内容は今後の業務に活かすことが出来そうですか？



4、今後「在宅訪問栄養指導」を利用しようと思いますか？



5、研修会で印象に残った事、意見・感想など

- 管理栄養士が様々な視点を持って関わり、多職種と連携できるということを理解した。
- 事例が多く、わかりやすかった。
- ターミナル期の介入として訪問栄養指導を行っていきたいと考えており、そのポイントがよくわかった。
- 低栄養サインの観察やMNA-SF、EAT11などのスクリーニングツールがあることを理解した。
- 食事は「生きる」うえで重要な事。今後も在宅訪問が増えることを期待する。
- 「食べられるものを食べたいときに食べて頂く」ために、いかに栄養量を確保し、バランスよく摂取できるか、個別性に合わせた提案を実施することは真のQOL向上につながるのだと痛感した。
- 栄養士会の活動がよくわかった
- 嚥下障害や味覚障害を起こす薬剤があるということが理解できた。
- 栄養＝食事をとる、ということのみならず、全身・全人的・多角的にみて提案・指導しているということを理解した。
- 高齢者にわかりやすく説明するために研修内での情報は必要で、今後も介護スタッフとの連携に利用して行きたい。
- 在宅で生活している方すべてに活用できる内容だと感じた。
- 地域で訪問栄養の取り組みが行われていることに驚いた。老老介護が多いので、今後の活動に期待している。
- スクリーニングツールをぜひ活用してみたい。在宅ではいかに本人・家族に寄り添って栄養管理法を提案するかが重要だと思った。
- とても広い範囲（経管栄養～嚥下障害～ターミナル期支援まで）の実践・症例をとりあげていたのでわかりやすかった。
- 様々なアプローチの仕方は大変参考になった
- 調理の簡単な工夫、食品の活用法、保存法等かなり役に立った。もっとレシピや上手な食品の使い方を知りたい。
- 肥満の方への栄養指導（体重管理）をどうしているのか、事例を交えて聞きたいと感じた。
- 独居の方にはあまり現実的ではないのでは。家族の支援が在宅では必要なのではないかと感じた

- 戸畑地区以外ではどこに依頼すればよいか教えてほしい。退院後、在宅移行時の連携はどのようにするのか知りたい。

6、今後研修で取り上げてほしいテーマ・内容

- フリーランスの医療職の働き方
- 法律関係
- 倫理のテーマ
- 施設の特性について
- 認知症の症例、病識のない（認知症）利用者への対応 認知症患者の在宅支援について
- 地域包括ケア構想について
- ターミナルの人の自宅での看取りについて 在宅での看取りについて
- 栄養指導についてもっと詳しく知りたい（腎食 たんぱく制限など）
- 排泄コントロール
- 嚥下機能について
- 引きこもり対象者の外出支援について